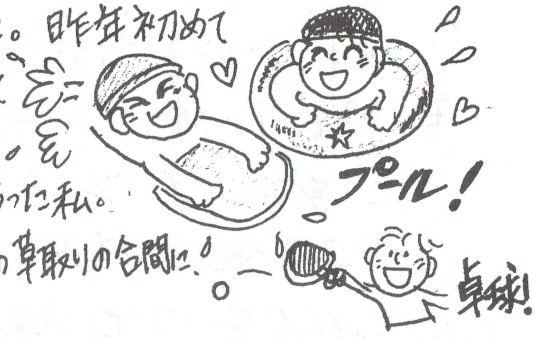


フクシマの子どもサマーキャンプサポーター隊 2015年

震災後、福島の子どもたちを被ばくから少しでも遠ざけようと、小諸で
 保養キャンプの受け入れをされているサポーター隊。今年も4回目となる
 キャンプ受け入れが実施されました。昨年初めて
 子連れで子どもたちと交流させて
 もらいましたが、元気いっぱい。
 子どもたちと逆に元気を沢山もらった私。
 今年も子どもたちに会いたくて、田の草取刈の合間に！
 参加させてもらいました。



今年も、子ども小中学生22人、赤ちん連れのお母さん組で合計24人が、
 7月31日～8月6日やって来られました。野外保育されているちいばお山にある野外
 あそび、フールボール狩り＆ジャム作り、ハロゲンボール、懐古園、プール、卓球など盛り
 だくさん！盛り沢山！私は卓球とプールの参加。卓球は指導ボランティアの下、
 丁寧に教えてもらい、初めての子どもも夢中。ボール合いは虫あそびを使い、外野に
 没頭する子も。おんは最後まで元気でした。おんは最後の練習子でした。とて暑がたのですが、
 プールは、事故がないようにとて大勢のボランティアの貝塚りボランティアがいる中、
 私は子どもたちとプール。スーろ人は見られるかと思いきや、流れるプールなので、
 結局水も少し布が濡る小の男の子1人が責任もてず、プールの貝塚りの大変さを楽感
 しました。ただ、1人が濡れていたのに、楽しんで遊べるようにしてくれたり、おんは
 高学年も無邪気に遊んでいる姿を見て、私も嬉しくなりました。自分の子が
 急に高熱を出したので、寝泊まりのお手伝いを直前に進めるなど、子どもが小さい内は
 責任の大きいお手伝いが必要なのと痛感したり、迷惑かけの事も少なかった
 一時でした。見送りは「また来年ね！」とおんは笑顔で送り出した。赤ちん連れのお
 母さんの涙を見て、福島の実情に胸がうなる思いでした。
 反省会では、中心の運営メンバーの方が体力が持たず大変な状況で、年配の方が
 多いので来年は引退される方も、子どもを安全に受け入れるための大変さを改めて感じました。